

<総評>

最近のさまざまなニュースや社会的な問題をさりげなく取り入れる作品が多くなってきました。

これは口語詩句の成長と言えるのではないのでしょうか。

古い方の名前で呼ばれる

にんげんの気配を

消して歩く日の

午後

まちりこ 埼玉県

——必ずしも気に入っているわけではない自分の名前。符牒として受け入れるには、生物としての気配を消すしかないのだろうか。夫婦別姓の問題も向こうにある。

トルストイ

さがし泳げば

図書室に満ちる和音のような真空

さいう 石川県

——図書室という宇宙を遊泳する。本来は音が伝わらないはずの真空に満ち満ちる和音という知識の恩寵。さがし泳ぐという動詞の取り合わせもうまい。

客席を埋め雑食の大白歯

奎いう子 佐賀県

——喜びや楽しみを見境なくむさぼる客たちの貪婪な咀嚼力が迫ってくる。

きみはきっとおばけのときの生活

が恋しいんだろー、って吠える犬

雲理そら 大阪府

——犬が吠えるのは、相手がそれぞれ自分のゴーストを持っていて、それが見えるのだろう。

冬林檎切る

フェイクニュースの熊きれい

檜野 美果子 宮城県

——フェイクニュースの動物はどれも綺麗で可愛い。人を襲う熊さえも。そして飢えた熊の姿を、蜜をたっぷりたたえた冬りんごを食べながら安全なところで見ている人も。

手にとった桃の産毛があなたより

すこし濃いから笑ってしまう

りんか 埼玉県

——桃と恋人の産毛を比べてしまう。多分そういう自分にハッとしている。ふいに現れる新鮮なエロスが産毛に輝く。

立冬の弱い散文止まらない

平 人工 宮城県

——近頃の冬は気力も個性もない。ズルズルといつの間にか「冬という季節」になってしまう。とめどなく盛り上がりのない散文のようだ。

言い草や仕草を摘んで

粥にした

仮野 栃木県

——「草」がついて表される言葉が多いのに驚く。青草、秋草など自然だけではなく、民草、思い草、根無し草など守備範囲が広い。なかでも人の言動である言い草や仕草などは粥にして味わいたいほどの発見。

存在を赦されたいと思う日の

棒のアイスにでてくるアタリ

にわ 栃木県

——生きていることさえ辛いと思うような日に、アイスの棒に出てくる当たりくじ。世界は滑稽なほど絶妙なバランスでできている。だから生きていなければ。

出国ゲート超えて私は人になる
それまでは桃色のおとうふ

夏山 栞 東京都

——桃色でプルプルしたものは、ちょっと気持ちが悪くて得体が知れないけれど、ちょっと可愛い。日本という世間のなかでは、いつもはそういうふりをして生きていた。

鏡面を保ちつつ湧く水のように
怒らないけど許さないから

回る卵 宮城県

——これは相当に恐ろしい。怒ると許すはワンセットでできているのに。いつかは決壊する世界のようなのだ。

水際で食い止めるから咲いてみて

立田溪 兵庫県

——花咲くという行為は危険だ。人目に付くし摘まれる恐れもある。「誰」が何処の「水際」で食い止めるのだろう。そんなものを当てにするなら咲かない方がいいかも。